

QUARTERLY JOURNAL OF JAPAN SCIENCE FOUNDATION / SCIENCE MUSEUM

JSF TODAY

NO.181 / SUMMER 2026

特集＝館スタッフたちがつくる教室



公益財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

目次

●特集	3	今年で4年目「蚊のひみつを知ろう!」	15
館スタッフたちがつくる教室		科学技術館でモールズ体験～モールズ信号「SOS」を打ってみよう!～	15
他にはない、科学体験を目指して		新展示「ダウンヒルレース」が3階G棟ギャラリーに出現	16
子どもたちの将来への「礎」となるような教室を		新カプセルトイ&新展示物「ツイストシリーズ」が「ものづくりの部屋」に登場!	16
館スタッフが手掛けたバリエーション豊かな教室			
科学技術館で初の「ぬいぐるみおとまり会」			
メンバー限定★科学技術館 館内ツアー			
●REPORT	10	●所沢航空発祥記念館 TOPICS	17
驚きと発見が満載! 体感する、美しき微細の世界		大規模リニューアル工事中も多彩なイベントを開催	
ニコン顕微鏡事業 100 周年 特別展「ミクロってなんだ? 展」			
●TOPICS		●海外研修 REPORT	18
日比谷図書文化館 日比谷カレッジ「ヒビ・カガク	12	韓国の博物館の「現在」を体感して	
～日々(ヒビ)の中に科学(カガク)をみつける」		科学博物館協議会・2025 年度「海外科学系博物館視察研修」レポート	
オリジナル謎解きイベント「科学技術館■■■修復管理室」	13	●財団 TOPICS	20
大好評ロングラン終了		2025 年度 当財団の事業報告・決算を承認	
“遊び・想像・発見の森” FOREST30 周年記念プレゼント	13	日本科学技術振興財団 2026 年 6 月開催 通常理事会・定時評議員会 報告	
企画を展開中		●JSF 掲示板	22
第 66 回科学技術映像祭「チャンネル 4 終わらないコロナ	14	日本科学技術振興財団・科学技術館の情報案内/寄附のご案内	
～後遺症と闘う 18 歳～」リモート上映会・講演会		賛助会「北の丸科学技術振興会」入会のご案内	
第 9 回「クルマのリサイクル作品コンクール」入賞作品	14	●なにこれ!? 科学技術館事典	24
ポスター展			



実験工房での「サイエンス友の会」の実験教室の様子

[表紙解説]

◇科学技術館には、普段は公開していない、ある特別な空間が存在します。その名は「実験工房」。ここには顕微鏡、ピーカー、フラスコ、試験管といった実験器具、そして実験試薬なども保管されており、子どもから大人までがいろいろな実験を体験できる場となっています。言わばここは、“科学への扉を開き、科学の世界にいざなう理科実験室”。表紙の写真は、この工房内で撮影した一枚です。

◇なかでも、当館のメンバーシップ「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」では、実験工房において数多くの実験教室を実施しています。教室に参加した子どもや大人た

ちは、実験器具の使い方や手順をじっくり学びとりながら実験に挑戦し、予想もしなかった現象に出会ってはきらきりと目を輝かせています。

◇当館には「実験工房」のほかにも、「実験スタジアム」や「工作室」といった、実験・工作の体験スペースがあります。近年は、こうした場を活用して、スタッフたちがオリジナル教室を企画・開発し、サイエンス友の会のプログラムとして展開する取り組みが充実をみせています。今号の特集では、こうして活気づく、個性豊かなスタッフたちによる実験教室にフォーカスしました。ぜひご一読ください。〈永〉

館スタッフたちが つくる教室

他にはない、 科学体験を目指して

科学技術館には、メンバーシップ「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」があり、メンバーや一般の方々に向けて、当館独自の工夫を凝らした多彩な科学教室プログラムを提供しています。近年は、外部講師が担当する教室に加えて、当館のさまざまな個性をもったスタッフたちが連携し、自ら考案・開発したオリジナル・プログラムも拡充させながら、他にはない、当館ならではの唯一無二の教室を模索しています。今号の特集は、当館のスタッフたちがつくりあげるさまざまな科学教室の取り組みをご紹介します。



実験・研究の大切な基礎を じっくりと育む体験教室

実験の組み立て方を知ろう

- Category 実験教室（実験応用）／化学分野
- Target 小学5年～中学生
- Date 2026年3月20日（金・祝）、21日（土）※直近の開催日（以下同）

2つの教室を開催しており、一つは水溶液の正体を探る方法を考える。どのように実験を組み立てていくのか、実験の種類や大切な基礎の考え方を解説し、6つの実験を通して4つの液体の正体を突き止め、それぞれの性質を理解していく。もう一つの教室では、牛乳の成分を予想し、実験計画を立てたうえで実験をしながら、実験・研究の考え方、進め方を学んでいく。いずれも、身近な材料を使った何種類もの実験を体験し、研究とは何かを考えてもらうことを目的としている。大学生レベルの実験まで体験していく子どもたちは最初は不安げだが、どんどん目が輝き、意見を述べたり自らノートをとったりして貴重な体験を楽しんでいる様子がうかがえる。

子どもたちの 将来への「^{いしすえ}礎」となる ような教室を



さわって、使って、感じよう！理科の実験道具

小中学校の理科の教科書にある実験道具（器具）を集め、器具の名前の意味やそれぞれの形の特徴、実験で担う役割を解説したのち、器具を使って簡単な実験をする。参加者の理科への心のハードルを少しでも下げられることを願って実施している。

- Category 実験教室（実験基礎）／化学分野
- Target 小学2年、3年と保護者、小学4年～6年
- Date 2026年5月17日（日）、5月24日（日）※直近の開催日（以下同）



じっくり しっかり 顕微鏡—顕微鏡操作とプレパラートづくりを頑張ろう！

丸一日をかけて光学顕微鏡の使い方と植物4種5枚のプレパラートの作成・観察をし、記録の取り方も学ぶ。手法の違うプレパラート作成技術の基礎を学べる同教室はニーズも高く、人気がある。

- Category 実験観察教室（顕微鏡基礎）／生物分野
- Target 小学4年～中学3年
- Date 2025年8月8日（土）、9日（日）



かんさつって おもしろい！ ★虫のワンダーランド★

身近にいるアリのテーマに観察の大切さを学ぶ教室。まず粘土で自分の知るアリの想像をつくり、その後、実体顕微鏡とルーペで観察した本物との相違を比べる。タンポポの舌状花も観察。

- Category 観察教室（実験基礎）／生物分野
- Target 小学1年、2年と保護者
- Date 2026年6月28日（日）

「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」では、時代の中で変化する科学教育の現状を踏まえ、理科教室のあり方そのものを見直してきました。こうしたなか、科学の基礎を踏まえたプログラムや、館スタッフの専門性・関心分野を生かした独自のプログラム開発に取り組み、「ここでしか体験できない教室」を目指して内容の充実を図っています。ここでは、サイエンス友の会の担当スタッフが、科学技術館運営部スタッフらと連携しながら、新たな科学教育プログラムをつくりあげていった経緯を紹介します。

■ 長い歴史の中で、大切にしてきた理念

科学技術館の開館当初から歩み続けてきた「サイエンス友の会」は、すでに“還暦を越える”歴史をもち、ここから数多くの研究者や技術者が育っていきました。コロナ禍以降の2021年春からは、「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」（以下友の会）と名称を変え、友の会メンバーの特典は、1年間の無料入館と、友の会で開催される教室への優先的参加となり、現在に至っています。

長い歴史の中で私たち科学技術館・友の会スタッフが大切にしてきた理念は、教室に参加した子どもたちが、サイエンスの面白さを知り、身の周りで起こるさまざまな事象の「理（ことわり）」に興味をもちながら、楽しく学び、楽しく生活し、子どもたちにとっていつか将来への道の礎になるような教室を開催したいという思いです。サイエンスが好きな人の集まりとしての友の会に加え、これからサイエンスと友達になる会としての友の会でありたいと思っています。

■ 多様化する理科教室の中で、館独自の教室を模索する

こうして、5年前に制度が変わった友の会ですが、実施する教室の内容も吟味し、変えていく必要性を感じていました。この15年余り、世の中のサイエンス教室を見てみると、博物館等の事業以外にも、進学塾の理科教室、学校で出張授業を行うNPOやその他の団体の実験教室が増えています。また、化学・製薬関連会社などの企業でも、社会貢献事業として小学生～高校生向きの実験教室が行われ、さまざまな形式や内容で、子どもたちにサイエンス実験教室が提供される時代になりました。

教室の選択肢が広がる中で、科学技術館の友の会を選んでもらうためには何をすればよいのか。また、長年展開している教室のマンネリ化や、限られた数のスタッフで新しい教室を開発するための時間や費用も大きな問題でした。

そこで、友の会の方向性と内容を決めていくために、小中高の各学校で教鞭をとる教育者やサイエンス研究者の先生方、教室参加者の保護者などに意見を伺い、市場調査をして、友の会として何をどのように提供していくべきかを考えました。

■ 館スタッフたちとともに、新しい教室の開発に挑む！

その結果出した結論の一つが、当館のさまざまな業務を担当する館スタッフに教室を開催してもらうことでした。館スタッフには、サイエンスの専門知識をもつ者、実験ショーや実験開発、展示物の技術的開発に携わる者、展示ブースの製作に関わる者など、さまざまな背景をもったスタッフがいます。皆、お客

様に伝えるものをつくりあげるといった共通の目的を持って仕事をしており、この知識や経験は、科学技術館でしか体験できない面白いサイエンス教室の開発につながるのではないかと考えたのです。

早速、館スタッフたちに打診してみたところ、嬉しいことに、誰もが教室の開発と講師としての実施を快諾してくれました。そして、予想通り、素晴らしい教室が次々と開催されました。どの教室も、専門分野の難しい内容が、やさしい言葉やモデルを使って分かりやすく子どもたちに伝えられており、参加者からも、「とても面白い」と高い評価をいただきました。

■「他にはない教室だから」。参加者の声に確かな手応え

今回の誌面では、友の会スタッフが開発し、実施してきた教室の一部(p.3~p.5)と、館スタッフが実施した教室(p.6~p.7)を紹介しています。

このようにして、館スタッフが開催した教室は、約2年半で20余、友の会スタッフが実施したものは40ほどになり、対象は4歳から大人にまで及びます。

参加者へのアンケートでは、参加理由として「他にはない教室だから」という声を多くいただいております。95%が「とても楽しかった」、「また参加したい」と回答しています。また、「これまでは理科がそんなに楽しくなかったけれど、この実験をやって理科が面白くなった」、「とても分かりやすくて楽しかった」、「もっといろいろな理科のことを知りたい」といった声もあり、友の会の目指す理念が参加者に伝わっているという確かな手ごたえを感じています。

友の会では、今後も幼児から大人まで、サイエンスに思いを馳せる心を開く教室を開発し実施していきたいと考えております。

〈サイエンス友の会 高橋 葉子〉

近年、友の会のオリジナル教室で扱ったテーマ（一部抜粋）

物理分野

電子部品図鑑
電子工作
科学マジックショー
線とコンパス
安息角

サリチル酸メチル（エステル反応）
蒸留
炎色反応
牛乳構成物定性実験
化学定性同定実験
真鍮作り
昇華カフェインの抽出

乳酸菌染色観察
海の小さな生き物の分類
アジの解剖

地学分野

フズリナ磨き
テレビ石
椀掛けによる鉱物の観察
木の葉石、足寄化石堀体験
薄片岩石作製と偏光観察

化学分野

スポットの使い方
実験道具の使い方
化学の基本・酸アルカリ実験
昇華実験カフェイン
液晶実験（コレステリック）
ニンヒドリン反応
アミノ酸ペーパークロマト分画
銀鏡反応
再結晶

生物分野

顕微鏡の使い方、観察
顕微鏡プレパラート作製
光学顕微鏡・実体顕微鏡での観察
昆虫と植物の観察
はちみつの中の花粉の調製
乳酸菌中和滴定

ワークショップ

松ぼっくりのツリー（種の話）
星座立体模型作り
鍾と柱の起き上がり模型作り



上) 科学マジックはきちんと原理や仕組みをタネあかし
右) 偏光板を使ったマジック。お客様が選んだ図形を当てます



メンバーの皆様に感謝を込めて。特別な科学マジックイベントも実現

メンバー限定「科学奇術館?へご招待」

「科学技術館の中には、『科学奇術館?』というところがひっそりとあるのだとか……」 — 2026年1月11日(日)、「サイエンス友の会科学技術館ファミリー」メンバーの皆様に感謝の意を込めて、メンバー限定の特別プログラム「科学奇術館?へご招待」を開催しました。

磁石や偏光板などを使った科学マジック、ARを使った映像技術マジックなどを見ていただきました。道具やARのプログラムを自作してなるべく見やすくなるようにし、マジックのタネあかし(原理やしくみの解説)もしました。さらに、ときどき本物のマジックを加えて、より不思議さを感じてもらいました。子どもも大人も科学や技術への興味をいっただくきっかけになれば幸いです。メンバーになると、いつか科学奇術館から招待状が送られてくるかもしれませんよ!

〈科学技術館運営部 展示グループ 中村 隆〉



親子で「海の小さな生き物」の図鑑を作ろう!

「チリメンモンスター®」と呼ばれる海の浅いところを漂う海の生き物の赤ちゃんを分類し、自分だけの図鑑を作る。親子で育まれる命の尊さと成長に伴う形態の変化や面白さを感じてもらおう教室。

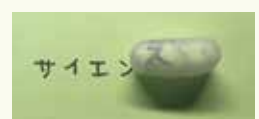
- Category 観察教室(実験基礎) / 生物分野
- Target 小学1年~6年と保護者
- Date 2026年1月17日(土)



鉱物磨き、化石クリーニング

鉱物とは何か、岩石との違いは? 化石はなぜ石になったのか? その仕組みや答えをしっかりと学んで、テレビ石(鉱物、写真右上)や化石の埋まったフズリナ石(写真右下)などを磨いたり、地層の中の木の葉や虫を発掘したりする教室を開催。

- Category 実験教室(実験基礎) / 地学分野
- Target 小学1、2年と保護者、小学3年~中学3年
- Date 不定期開催



入館料は1年間無料。当館独自の理科教室への優先参加が特典に

「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」のご案内

<https://www.jsf.or.jp/guide/#post-2662>

サイエンス友の会は、科学技術館で理科の世界を存分に楽しみながら学んでいただくことを目的とするメンバーシップです。メンバー証を発行した日から1年間、当館への入館料は無料となり、今回誌面でご紹介しているような、さまざまな理科教室に、優先的にご参加いただけます。その他、ショップでのお得な割引もあります。ご興味がある方はぜひ上記 URL または右記二次元コードから詳細をご覧ください。



館スタッフが手掛けたバリエーション豊かな教室



上) 気象現象を考える実験。空気が暖まると……
右) 天気図は、気象を理解するためには今も格好のツール



●Category 気象実験教室／地学分野
●Target 小学4年と保護者、小学5年～大人
●Date 2025年5月25日(日) ※直近の開催日(以下同)

天気図から気候変動のトピックへ。 気象予報士の視点で進化する教室

「日本の天気を知ろう! 一気象の基礎と異常気象」

気象をテーマとした教室は、2008年に「天気図入門」として開始しました。当初はラジオ番組「漁業気象通報」で放送される観測データをもとに、私が描いた天気図の抜けている部分を参加者に描いてもらい完成させるという内容でした。これを5年間ほど開催したのち、しばらくお休みしている間に通信網はさらなる発展を遂げ、海や山でも「図」の入手は当たり前、いよいよ自身で天気図を描く必要性が低くなりました。

そのため、再開した2020年代以降は教室名を変更して、天気図の時間を短縮し、気象現象の仕組みを考える実験、近年の気候変動や激しい気象現象などのトピックに費やす時間を増やしました。

事前に参加者たちから受け付けた質問の回答も用意しますが、気象予報士に関する質問が多いなど、参加者の興味が何かを知ることができて面白いです。

〈演示グループ・気象予報士 荻野 亮一〉

歯車の仕組みを学べる模型を製作。 子どもだけでなく、企業研修にも活用

「キネティックアート模型で歯車のしくみを学ぼう!」

キネティックアート模型を組み立てながら、歯車のしくみを体験的に学べるプログラムです。歯車の学習用模型を作る際に、科学現象を伝えながら、歯車の仕組みを学べる模型にしたいと考えました。そこでネタを探していたところ、キネティックアート模型の存在を知り、3Dプリンターで製作しました。多くの製品では、安全上、歯車は外から見えませんが、この教室では、歯車がどのように動いて、どのように製品に使われているか考えるきっかけとなればと思っています。

このキットのプレゼン資料を作る際、小原歯車工業株式会社に協力いただいたことがきっかけで、実際に同社の方にこの教室を見学いただくこととなり、同社の新入社員研修やワークショップでもキネティックアート模型を活用いただきました。

〈技術グループ 横山 カ〉



上) キネティックアート模型を動画で解説
下) 歯車がどう動くか組み立てて理解する



●Category 科学技術工作教室／物理分野
●Target 小学3年～中学生
●Date 2025年8月23日(土)



上) このアンテナでは金属の大きさと位置が重要 (JO1LDY 黒木氏発案・JA1CPA 中村氏設計)
右) スタッフが撮影し、教室で披露した“山羊アンテナ”写真。八木・宇田アンテナにも親しみが



●Category 実験工作教室／物理分野
●Target 小学3年、4年と保護者、小学5年～大人
●Date 2026年2月8日(日)

八木・宇田アンテナを手作り工作。 電波を受信してテレビが映ると歓声が 「アンテナをつくってみよう」

私たちの生活には、目には見えない電波を使う機械があふれています。その電波を送受信するための装置として、屋根の上に設置された魚の骨のような八木・宇田アンテナや、ベランダなどにあるお皿のようなパラボラアンテナをご存じの方は多いはずです。

この教室では簡単な工作でアンテナをつくって電波を受信することを目指しました。日本人が発明し、IEEE マイルストーン認定と、いわゆる未来技術遺産登録も受けている八木・宇田アンテナをテレビ用の3素子で作り、実際にテレビが映ると、歓声が上がりました。また、家に持ち帰っての実験を促したところ、参加者から普通のアンテナを外して自作アンテナでテレビを見ているという嬉しい声もいただきました。

〈展示グループ 松浦 匡〉

「サイエンス友の会」では、科学技術館運営部のさまざまなグループのスタッフに、それぞれの専門分野や関心分野、担当業務を生かした教室の企画・開発を打診し、バリエーション豊かな教室が実現しました。ここではいくつかの事例をご紹介します。



小さなお子さんも「開発」に夢中！ 親子で対話しながら体験する自由工作

「紙コップ工作研究室 ～うごくしくみを探せ！～」

情報が簡単に手に入る時代に、あえてつくり方が分からない物を作ることの面白さやコツを、親子で対話を楽しみながら体験することを目的としました。

紙コップを「観察」した後、少し加工するだけで面白い動きをするラッコのおもちゃの「開発」を行いました。「開発」は、最初に全員一緒に練習し、残りの時間を各自の自由工作としました。この教室は、4歳から小学2年までの親子が対象で、飽きてしまった場合は途中退場 OK としましたが、むしろ時間が足りず、終了時間を伝えると、参加者は「え!？」と驚いていました。自由工作を実施するのは初めてでしたが、皆さんが安心して集中できたことは大きな収穫です。

今回のような教室は場所を問わずに実施できるため、館外でも活用できれば嬉しいです。
〈展示グループ 雁部 貴美〉



上) ラッコのおもちゃ完成! ストローを動かす?!
左) 親子が時間が経つのも忘れて夢中で工作

- Category 科学工作教室／物理分野
- Target 4歳～小学2年と保護者
- Date 2026年2月22日(日)

「たね」は親子で観察できる良い教材。 遊びながら、植物の命を感じてみる

「たねであそぼう! ～たねはひみつがいっぱい」

皆さんは昨日の晩ご飯、何を食べましたか? 米や大豆など、私たちは日々無意識のうちに「たね」を食べて生きています。では、「たね」とはいったい何でしょう? 「たね」は、「植物の赤ちゃん」に例えることができます。

今回の参加者は幼児とその保護者。「たね」は小さな子どもでも落ち着いて楽しく観察できる良い教材です。親子で飛ばしたりくっつけたり遊びながら、植物の命を広げる工夫についてお話ししました。また、滑空するたね「アルソミトラ」の模型も作りました。手を放すと、「たね」はいろんな方向に飛んでいきます。思わず走って追いかける子、羽の反りを少し変えて飛ばし方を工夫する子、思い思いに「たね」の魅力を感じてくれたかと思います。〈演示グループ 高橋 可那子〉



上) いっせいにアルソミトラの模型が飛びます
左) 「たね」の形や大きさはさまざまです



- Category 自然工作教室／生物分野
- Target 4～6歳と保護者
- Date 2024年10月27日(日)



上) 材質と安息角の関係性を確かめる実験
右) 土台の形を変えて、安息角がつくるアートにも挑戦

- Category 自然体験教室／地学・防災分野
- Target 小学4年～中学3年
- Date 2020年10月25日(日)



防災意識を学ぶ地学プログラム。 学びが未来の備えとなる

「備える! 今こそ知っておこう『安息角』」

昨今甚大化する自然災害を受け、防災意識を科学の多角的な視点で捉える「備えるシリーズ」の地学分野として、小学4年～中学3年向けのオリジナルプログラムを開発しました。「なぜそこが危険に指定されているのか」という背景まで見通す科学の目を養い、将来の「減災」へ繋げることを狙いとしました。

専門用語を直感的に学べるよう、構成に工夫を凝らしました。砂や米の積み上がる限界(安息角)を比べる実験から、Googleマップで身近な危険エリアを考察するワーク、形による変化を楽しむアート要素まで段階的に構築。終盤には、地形のリアルな危険性を実感する感想など確かな手応えがあり、学びが未来の備えになることを確信したプログラムとなりました。
〈展示グループ 蔵居 悠〉

科学技術館で初の「ぬいぐるみおとまり会」 ぬいぐるみたちが過ごした 夢いっぱいのおとまり会

自分のぬいぐるみが施設で“おとまり”体験をする「ぬいぐるみおとまり会」が図書館やミュージアムなどで広がる中、科学技術館でも、当サイエンス友の会メンバー限定イベントとして、この春に「おとまり会」が実現しました。幼児・小学生のお子さんから大切な「ぬいぐるみ」12体をお預かりし、館内での特別な体験の様子を写真アルバムにまとめ、メンバーにお返ししました。子どもたちからは大きな反響があり、心温まる催しとなりました。



仲間が見守るなか
空気砲は大成功!

館内5階「ワークス」で、実験を体験するぬいぐるみたち。楽しんでくれたかな？

館内ツアー



緊張の
お仕事体験



楽しい食事!



白衣を着て実験に挑戦!



幻想的な
宇宙の旅に
うっとり



夢だった
自転車にも
乗りました



みんながいっぱいいる!



記念メダルの
できあがり〜

メイキング



上) 5階「ワークス」：照明もばっちり、実験ショーコーナーで「空気砲」撮影。煙の輪をいくつ飛ばしたろう?／右上) 屋上：記念撮影中。みんななかなか並ばないな／右下) 4階「シンラドーム」：安らぐぬいぐるみたちを下で支える力持ち!



おとまり会を終えて



撮影写真は2階ギャラリーに展示中。来館者の方々に、ぬいぐるみたちが楽しんでいる様子を見ていただいています



参加者一人一人に個別に写真アルバムを作ってプレゼント。子どもたちの嬉しそうな表情にスタッフたちも思わず笑顔に



参加者から科学技術館に届いた、お礼の手紙。「マイぬい」のお友達を描いた愛らしいイラストも

メンバー限定★科学技術館 館内ツアー 新たなテーマで館内を巡り 科学技術館を再発見！

2025 年春から今年にかけて、「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」メンバー限定の「科学技術館 館内ツアー」を計 3 回実施しました。本ツアーは、友の会メンバー特典である年間パスで繰り返しご来館いただいている“科学技術館通”の皆様を対象に、毎回異なるテーマで館内を案内し、新たな視点から当館の魅力を再発見していただくことを目的としています。毎回、参加者からも好評をいただいております、今後も継続してツアーを実施する予定です。

科学技術館にとって、「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」メンバーは、年間パスポートをお持ちの常連様であると同時に、館の活動を支えてくださっている文字通りの“ファミリー”であると考えています。館内のあちらこちらをご存じである皆様に対し、ご愛顧への感謝も込めて、展示を作るときにどんなことを考えているかをお話したり、ちょっと深掘りしてご紹介したりする機会として、メンバー限定での館内ツアーを実施しています。

■ 順路のない科学技術館であえてテーマを設定

科学技術館では順路を設定しておらず、また、展示室ごとにテーマがあるため、ご来館の方は好きな展示をお好きな順でご覧になります。それに対して、2025 年春からスタートしたこの「メンバー限定★科学技術館 館内ツアー」では、案内人を務める館スタッフ独自の視点で館内を巡っています。

2025 年 5 月 31 日（土）の第 1 弾では「歯車」、同年 10 月 5 日（日）の第 2 弾では「音」をそれぞれキーワードとしました。歯車と言うと、機械要素をテーマとした 5 階「メカ」展示室がまず挙げられるのですが、2 階にもたくさんの歯車に関連した展示があり、回転に関係すると考えれば 3 階にもさまざまな関連する展示があります。同様に音についても、5 階「サウンド」展示室だけでなく、館内各所に音に関連した展示があり、このツアーではこれらの展示を関連付けながらご案内しました。

■ ゴジラ漫画の内容を汲み「石炭から量子力学まで」を紹介

2026 年 6 月 14 日（日）の第 3 弾ツアーでは、石炭・石油からエネルギーを得る火力の「発電」にはじまり、電気を活用する「動力」の話、同様に電気が担う「情報通信」、そしてその次世代の技術を担う「量子力学・技術」を概観しました。これは、同年 1 月 15 日（木）から 27 日（火）まで当館で開催した「ゴジラサイエンス展」に展示された、『ゴジラ ギャラクシーオデッセイ』の描きおろしオリジナル漫画の内容を汲むものでした。

同作品では、主人公である海道ミュが所属する巨大生物研究所が、科学技術館の地下にあるという設定になっています。この主人公の長台詞回しに当館が協力した関係で、そのコマも紹介しながら、ゆっくりと「石炭から量子力学まで」の思考を辿りました。

どの回も多くのメンバーの皆様にお楽しみいただきました。第 4 弾、第 5 弾にもご期待ください。〈科学技術館運営部 松浦 匡〉



第 1 弾のテーマは **歯車**

自転車でギアやチェーンがなかったら……？ 展示室「自転車広場」にて

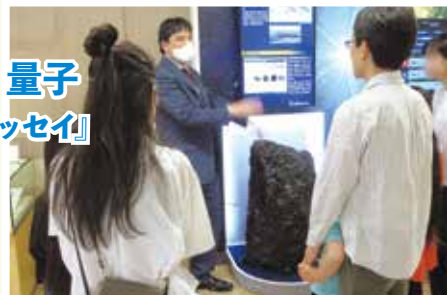


第 2 弾のテーマは **音**

「サウンド」以外の展示室にも不思議な音が。展示室「ニュー・エレクトロホール〈サイバー・リンク〉」にて

第 3 弾のテーマは 発電・動力・情報通信・量子 &『ゴジラ ギャラクシーオデッセイ』

石炭からの“連想ゲーム”で館内各所を散策。展示「石炭って知ってる？」にて



ゴジラの漫画に科学技術館が登場！

『ゴジラ ギャラクシーオデッセイ』3 巻 特装版に収録予定のワンシーン。「ホンモノを掲載したい」との依頼で当館が台詞に協力した。

同作品では、主人公である海道ミュが所属する巨大生物研究所が科学技術館の地下にあるという設定。ミュが館内で気分転換していたところ、来館していた少年に「この石炭って何？」と話しかけられ、「石炭から量子力学まで」を一気に早口で解説したところ、少年から「石炭からの連想ゲームでここまで来ると思わなかった」と言われてしまうという長台詞回しのシーンが登場する。



『ゴジラ ギャラクシーオデッセイ』3 巻 特装版（漫画・石口十、ゴジラデザイン・西川伸司、宇宙怪獣デザイン・丸山浩、科学考証・芝原暁彦／秋田書店刊／2026 年 8 月 20 日発売）同作品は、「ヤングチャンピオン」「ヤンチャン Web」にて好評連載中。「ヤンチャン Web」連載ページはこちら
<https://youngchampion.jp/series/20a59d2babf28>



TM & ©TOHO CO., LTD.

■ REPORT

ニコン顕微鏡事業 100 周年 特別展「ミクロってなんだ?展」

驚きと発見が満載！ 体感する、美しき微細の世界

ニコンの顕微鏡事業 100 周年を記念した特別展「ミクロってなんだ?展」がこの春、科学技術館を会場に約3週間にわたって開催されました。顕微鏡が映し出す美しく不思議なミクロの世界を、没入感ある体験型展示を通じて紹介し、来場者の好奇心や探究心を育む貴重な場となりました。



展示を見学してクイズの答えを書き込む「顕微鏡クイズラリー」も会場内で実施。ゴールでシートを渡すと記念品がもらえる

●顕微鏡を通して広がる、想像を超えた世界を体感

2026 年 4 月 16 日 (木) から 5 月 5 日 (火・祝) にかけて、科学技術館 2 階イベントホールにて、株式会社ニコン主催の顕微鏡事業 100 周年特別展「ミクロってなんだ?展」が開催されました。

本展は、ニコンの顕微鏡事業の基点となった「JOICO 顕微鏡」の発売 (1925 年) から、2025 年で 100 周年の節目を迎えたことを記念して企画されたものです。

会場では、ニコンがワールドワイドに展開している顕微鏡画像コンテスト※の受賞作品を中心に、顕微鏡を通して広がる美しく色鮮やかなミクロの世界を紹介しました。身近な花や葉っぱ、魚、食べ物なども、顕微鏡で拡大して見ると、いつもとは全く違う姿を見せてくれます。色とりどりで不思議な形、想像もしなかった美しさなど、普段は見ることのできない驚きと発見に満ちた世界が会場に広がり、子どもたちの「なぜ?」「どうして?」という好奇心を刺激する、ワクワクにあふれた展示となりました。

(科学技術館運営部 中村 潤)

※ニコンが展開する顕微鏡画像コンテスト

NIKON JOICO AWARD: 顕微鏡によって得られた画像がもつ「芸術性」と「学術性」をひとつの研究成果作品として審査するアワード
<https://www.healthcare.nikon.com/ja/ss/joicoaward/>

Nikon Small World: 光学顕微鏡を通して見る生命の美しさと複雑さを紹介する顕微鏡画像のコンテスト。静止画と動画の2つの部門で構成される
<https://www.nikonsmallworld.com/>

顕微鏡観察ワークショップ

「なぞを解くのはきみだ!なりきりミクロ・ミステリー」も開催
“見えないものを見る” 観察の魅力を体験!



特別展の一環として、小学 3 年生～6 年生の親子を対象とした顕微鏡観察ワークショップも 4 月 25 日 (土)、26 日 (日) に開催されました。本ワークショップは、子どもたちが顕微鏡を使う専門家になりきり、ミクロの世界から謎を解き明かす体験型イベントです。残された手がかりを顕微鏡でじっくりと観察し、肉眼では見えない小さなヒントを見つけ出していくプログラムに、子どもたちは興味津々。遊び感覚で楽しみながら、顕微鏡観察の面白さや「見えないものを見る」という科学の奥深さに触れる、貴重な体験の場となりました。



導入エリア

ミクロの世界から
生命（いのち）の未来を照らせ。

会場入口に、「人類の大発見と顕微鏡の
歴史」の解説パネルと、1925年に誕生
した「JOICO 顕微鏡」（レプリカ）を展示



森エリア

森や野原、水辺にひろがる
ミクロの世界を探検！

花やチョウの形をした解説パネルがあっ
たり、“池”の中にミクロの世界が広がっ
ていたり。約 50 作品のミクロ画像を展示



海エリア

海の中はいのちであふれてる。
いろいろな生き物たちを見つけよう。

まるで海の中を散歩しながらミクロの世
界を探索しているよう。海に棲む生き物
たちのミクロ画像を約 35 作品展示



街エリア

私たちの暮らしの中にもミクロの世界
がある。お家の中にも街中にも……

暮らしの中にあるミクロの世界を見つける
エリア。PC のマイクロチップから食べ物
の細胞まで、ミクロ画像約 70 作品を展示



日比谷図書文化館 日比谷カレッジ「ヒビ・カガク〜日々(ヒビ)の中に科学(カガク)をみつける」

千代田ミュージアムネットワーク参加館との連携で科学の新講座始動！

千代田区立日比谷図書文化館では、「日比谷カレッジ」と題して、ビジネススキルアップや江戸・東京の歴史や文化、アートなど多彩なテーマで開催される講座やイベントなどを行っています。その中で、科学や技術をテーマに取り扱う新たな試みをしたいと科学技術館にお声掛けをいただき、2026年6月に、「ヒビ・カガク」と題した講座が実現しました。



平日夜にもかかわらず区外からもご参加が



歴史ある日比谷図書文化館での開催(第1回講演会)



歯車関係の展示の意図を紹介(第2回ガイドツアー)



美しい歯車は科学技術館オリジナルキット



千代田ミュージアムネットワーク (CMN)
<https://museum.net.city.chiyoda.lg.jp/>

■日比谷図書文化館「日比谷カレッジ」

旧・東京市そして東京都の図書館活動の中心を担っていた日比谷図書館が都から千代田区に移管され、区立日比谷図書文化館として開館したのは2011年のことでした。

同館のさまざまな役割のうち、アカデミー機能を具現化する手段として、「日比谷カレッジ」が開催されています。その中には、区内の博物館・美術館、図書館、文書館などの施設が連携・協力する「千代田ミュージアムネットワーク(CMN)」を介した、区内施設との連携企画もあります。

■新講座「ヒビ・カガク」の立ち上げ

2025年秋、日比谷カレッジで科学や技術も取り上げてみたいとして、日比谷図書文化館から科学技術館にお声掛けがありました。担当者間で打ち合わせを重ねた結果、

- 新たに立ち上げる企画は「日々(ヒビ)の中に科学(カガク)を見つける」がテーマの「ヒビ・カガク」と題する
- CMN 連携企画として、科学技術館と連携する
- Vol.1は歯車に着目した2回連続講座とし、第1回は日比谷図書文化館においてテーマの概説、第2回は科学技術館で関連する展示のガイドツアーを行うことになりました。

■Vol.1「機械を動かす身近な要素(全2回)」

2026年6月12日(金)の第1回は、日比谷図書文化館のスタジオプラス(小ホール)で、19時から開始しました。「科学や技術について」「やわらか〜ご紹介します」として、「カガク」こと科学や技術という言葉、千代田区にあるカガクの例、そして身近にある歯車などについてお話ししました。

翌週6月20日(土)の第2回では、科学技術館の展示室ごとのテーマの垣根を越えて、歯車に関連したさまざまな展示を巡りました。また、「不思議で美しい歯車」の装置を分解し組み立て、組み合わせ方の例を体験するワークショップも行いました。

■今後のさらなる連携に向けて

いわゆる市民講座として区の施設と連携したこと、そして、その新しい試みの立ち上げに携われたこと、またご参加の方々による当館で見学の機会を持てたことは、大変光栄でした。

一方で、他の日比谷カレッジの講座には専門性の高いものが多いこともあり、演題や内容をもっと特化させるべきであったというお声があったのは今後の課題です。

科学技術や自然史などを扱うCMN参加館は他にもあり、ヒビ・カガクもこれから回を重ねていくと思われますが、今回を踏まえて、また連携できれば幸いです。

〈科学技術館運営部 松浦 匡〉

全館謎解きに 2,600人超が参加！ 次回も「高難度」にご期待を

2017年からほぼ毎年11月に開催している「東京パズルデー in 科学技術館」には、ジグソーパズルや知恵の輪など、たくさんのパズルが集まります。その一環として、2018年から高難度の「科学技術館オリジナル全館謎解き」も毎回新作が登場します。「東京パズルデー 2025 in 科学技術館」では、第6弾となる「科学技術館■■修復管理室」がお目見えし、2025年11月19日(水)から2026年5月31日(日)まで継続して開催しました。

一般的な謎解きの「スタッフはヒントや答えをお教えしません」という“お約束”に対し、当館の謎解きでは「ただし、どうしても……という場合には、スタッフにご相談ください。少しだけヒントを差し上げられるかもしれません」という立ち位置での運用とし、科学技術館スタッフは言わば“ゲームマスター”を担当しました。また、謎解きに参加された正解者には、スタッフ手づくりの記念撮影用ボードをご用意しました。

2026年3月頃から謎解きイベント検索

サイトで、4月からはX(旧 Twitter)でも話題となって評価が高まり、受付をした方はトータルで2,600人超と、予想外の多くの方々にご参加いただきました。また、イベント検索サイトの投稿によれば、当館謎解きの平均プレイ時間は5時間超で、実際に1日では解き終わらずに再来館、再々来館する方も多数いらっしゃいました。

参加者の方々の声としては、「とても難しかった」という感想に加え、「館内の展示と一緒に楽しめた」、「入館料だけでこれだけ充実しているなんて信じられない」、「パズル的な要素がここまで強い謎解きは初めてだ」、「次回作も楽しみだ」、「過去作を知らなかったのが悔やまれる」といったお声を多数頂戴しました。

ご要望にお応えして、2026年11月14日(土)、15日(日)の「東京パズルデー 2026 in 科学技術館」で登場する新作謎解きの準備を進めるとともに、過去作の再演も検討中です。引き続き、高難度の科学技術館オリジナル謎解きにご期待ください。〈科学技術館運営部 松浦 匡〉



最終日の謎解き特設受付は、正解報告とヒントを希望する参加者で大混雑



脱出ゲームの文化を汲む撮影ボードは当館スタッフ手づくり。謎解きに正解された参加者にお渡しし、記念撮影時に使っていただきました

“遊び・想像・発見の森” FOREST30周年記念プレゼント企画を展開中

毎月21日は「FORESTの日」。記念品「FOREST缶」を先着プレゼント！



公式SNSをフォローしてFOREST缶をゲットしよう！



中には「FOREST」を体感できる多様なアイテムが

2026年4月21日(火)、科学技術館5階を中心とした展示フロア「FOREST」が開設30周年を迎えました。これを記念し、この4月から2027年3月までの1年間、休館日を除く毎月21日を「FORESTの日」と定め、各日先着30名様に記念品をプレゼントしています。

記念品は、通称「FOREST缶」。30年前の4月、「FOREST」のオープンを記念して式典などで関係者に配布されたノベルティを、そのまま大切に保管してきたものです。

缶の中には、錯視を楽しめるアイテムや当時の展示写真など、さまざまなアイテムが収められており、「FORESTの一部を持ち帰り、そのねらいや魅力をより深く体感していただきたい」という思い

が込められた内容となっています。タイムカプセルを開けるような懐かしさを感じながら、時を経ても色あせることのない、「FOREST」という“遊び・創造・発見の森”の多義的な世界観を存分にお楽しみいただけます。

「FOREST缶」をご希望の方は、毎月21日のいずれかのお日にちにご来館いただき、当館公式SNS(InstagramまたはX)のフォロー画面を、館内3階・科学技術館運営部事務室にてご提示ください。フォロワー一人につき1個をお渡しします(各月30個限定、なくなり次第終了)。30周年を記念して、これからもさまざまな周年イベントを開催予定です。今後の企画にもぜひご期待ください。〈科学技術館運営部/経営企画室〉

第66回科学技術映像祭「チャンネル4 終わらないコロナ～後遺症と闘う18歳～」リモート上映会・講演会

コロナ後遺症に苦しむ人への理解と支援の輪を広げよう



本イベント上映作品より。楽しみにしていた振袖を着て成人式に出席した山田幸奈さん。今なおコロナ後遺症と闘うが、「20歳の決意」には諦めない力強さと希望がうかがえる
©テレビ信州

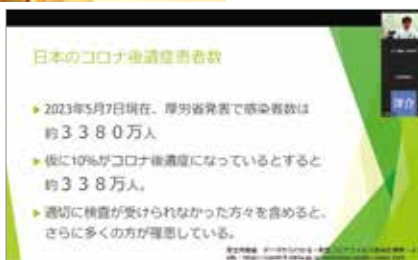
と課題を伝えています。今回の上映会では、テレビ信州のディレクター、大和洋介さんによる作品紹介の後、山田さんが成人式を迎える最近の様子を上映。上映後には山田さんご本人も登場いただき、「コロナ後遺症に苦しむ人を理解し、支援の輪を作ってほしい」とコメントを寄せてくださいました。

続く平畑先生の講演では、コロナ後遺症の現状とともに、自身が感染しないよう予防すること、疾患理解を深めることが大切であることなどを詳しく解説いただきました。

コロナ禍を経て、今多くの方が日常を取り戻す一方で、新型コロナ感染後に後遺症を発症し、周囲の理解を得られず、自身の取り巻く環境に悩む方がまだ多くいらっしゃいます。支援が拡充し効果的な治療法が見つかることを願い、まずはコロナ後遺症について理解することが大切だと実感する機会になりました。(人財育成部 高橋 奈央)



上映会では、テレビ信州の大和洋介さん(右)から、山田さん(左)への取材のきっかけや番組製作の様子を画像を交えて紹介いただいた ©テレビ信州



平畑光一先生の講演では、実際の症例などを交えながら、十分に理解されていないコロナ後遺症の現状について解説。理解することの大切さを訴えた

2025年「第66回科学技術映像祭」で文部科学大臣賞を受賞した株式会社テレビ信州製作のドキュメンタリー番組「チャンネル4 終わらないコロナ～後遺症と闘う18歳～」の受賞を記念した上映会と、同作品に登場する内科医、平畑光一先生(ヒラハタクリニック院長)の講演会を、コロナ後遺症への知識や理解を深め

ることを目的に、2026年6月28日(日)にリモートで実施しました。今回はリモートで行うことにより、移動距離や体調の理由で来場しづらい方にもメッセージを直接届けられるよう配慮しました。

受賞作品では、新型コロナ感染直後から全身が動かなくなった当時18歳の山田幸奈さん取材し、新型コロナ後遺症の現状

「科学技術映像祭」は、優れた科学技術映像を選奨し科学技術への関心を喚起するとともにその普及をはかることを目的として1960(昭和35)年より開催し、2026年度で第67回を迎えました。
<https://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>

主催：公益財団法人日本科学技術振興財団
公益社団法人映像文化製作者連盟
公益財団法人つくば科学万博記念財団
一般財団法人新技術振興渡辺記念会

第9回「クルマのリサイクル作品コンクール」入賞作品ポスター展

自動車リサイクル促進センター 主催

子どもたちの発想が自動車リサイクルの原動力に

2026年5月28日(木)～6月30日(火)の期間、科学技術館4階G棟(回廊)のサイエンスギャラリーにおいて、第9回「クルマのリサイクル作品コンクール」入賞作品ポスター展を開催しました。本コンクールは、当館4階の常設展示「クルマのほとんどがリサイクル」を出展している公益財団法人自動車リサイクル促進センターの主催によるもので、2026年度は15,915件の応募作品の中から、標語とポスターをそれぞれ6作品展示しました。

会場では、同作品コンクールにおいて「最優秀賞」、「小学生新聞賞」、「審査

員特別賞」、「小島よしお賞」の各賞に輝いた作品の数々を展示。子どもたちならではの豊かな発想で表現された作品に、多くの来館者が足を止め、時に対話をしながら熱心に見入る姿が見られました。

いま多くの小学校では、日本の工業生産と関連して、自動車リサイクルの取り組みが授業で取り上げられています。本展もまた、作品を通して、自動車リサイクルの仕組みや資源を大切にすることへの理解を深め、環境保全や循環型社会について考える機会となりました。

(科学技術館運営部 遠藤 紀子)



ギャラリーには作品ポスターを見ながら対話する親子の姿も

「蚊学」をもっと楽しく、もっとわかりやすく

2026年6月20日（土）、21日（日）の2日間にわたり、科学技術館4階「実験スタジアムL」にて、「蚊のひみつを知らう！」（主催：アース製薬株式会社）を開催しました。本イベントは、蚊の活動が活発になる夏を前に、蚊の生態や特徴、虫ケア用品の正しい使い方を伝える場として毎年開催しており、今年で4年目を迎えました。

今年は約10分間のミニ講話「蚊学」にワークシートを取り入れ、蚊の生態について考える参加型プログラムを実施しました。蚊がどのように人を見つけるのか、熱や二酸化炭素などを感じるセンサーの仕組みや、服の色について解説すると、「知らなかった!」、「今日は刺されやすい色の服を着ているね」といった驚きの声が上がリ、親子で会話を交わす様子が見られました。

また、一部の展示台を低くしたところ、多くの未就学児たちが自分の目で

社会体験アプリ「ごっこランド」に登場した、アース製薬の体験型ゲーム「くらしかいてき! たんけんたい!」を楽しむ男の子。写真は虫よけ剤をつけて森を探検する「はだまも はっけんカメラ!」ゲームの様子



毎年大好評のミニ講話「蚊学」。今年はワークシートを取り入れてさらに参加型に。お役立ち情報もいっぱい

顕微鏡をのぞき込みやすくなり、蚊のオス・メスの違いをじっくりと観察していました。

そのほか、キケンな害虫のパネルや標本展示、虫ケア用品の展示、子ども向け社会体験アプリ「ごっこランド」の体験コーナーも好評を博し、子ども



展示台を低くすることで、お子さんたちも、より虫を観察しやすくなった

から大人まで多くの来場者が楽しみながら学ぶ機会となりました。身近な昆虫である蚊への理解を深めるとともに、感染症予防につながる知識を身につける場として、多くの親子連れでにぎわう2日間となりました。

〈科学技術館運営部 遠藤 紀子〉

科学技術館でモールス体験 ～モールス信号「SOS」を打ってみよう!～

電波教育協会 主催

ワイヤレス社会を見据えて、無線通信の歴史を体験!

2026年5月2日（土）、3日（日・祝）の2日間、科学技術館2階G棟サイエンスギャラリーの一角を会場に、モールス符号を用いる通信の体験「科学技術館でモールス体験 ～モールス信号『SOS』を打ってみよう!～」を行いました。すっかり恒例になったこのイベントは、無線通信分野の発展に寄与することなどを目的としている一般社団法人電波教育協会によるもので、2026年情報通信月間参加行事「科学技術館でモールス体験 無線通信の歴史と未来そして無線従事者を知らう」として行われました。

19世紀前半のサミュエル・モールスらの発想に由来するモールス符号は、短点（・）と長点（—）を組み合わせで文字を表現する、人間が解読できる

最も原始的なデジタル信号と言うこともでき、初期の電気通信に大きな役割を果たしました。モールス符号を用いた通信は今日では少なくなりましたが、完全に消滅したわけではなく、また楽曲や映画などのモチーフなどに使われることもあり、耳にする機会意外とあります。

2020年から開催された総務省「デジタル変革時代の電波政策懇談会」などでは、「ワイヤレス人材」の確保・育成が謳われています。急速に発展する電波利用システムなどの新しい技術について、その担い手が求められているというわけです。今後とも、科学技術館などで無線通信の歴史を追体験いただき、来るワイヤレス社会も見据えていただければ幸いです。〈科学技術館運営部 松浦 匡〉



モールス符号をつくる電鍵で、打鍵に挑戦するお子さんたち。会場には数々の無線・電波の展示も



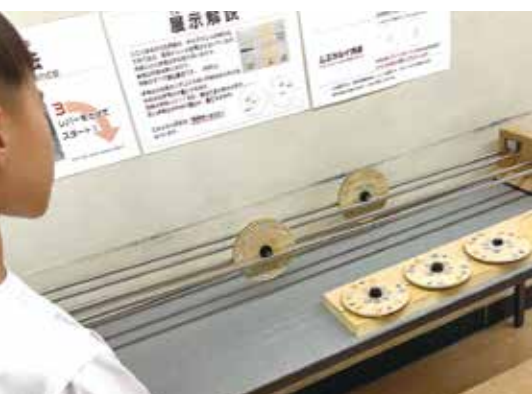
今回のイベントをイメージ化したメイン・ビジュアル。電鍵で叩いてみたいのはやっぱり「SOS」?

新展示「ダウンヒルレース」が3階G棟ギャラリーに出現

同じ重さなのに速さが違う?! 「慣性モーメント」を体験しよう



3Dプリンタ製のスタート台に2枚の円板をセット



おもりが中心に近い円板と遠い円板で速さを競う

2026年3月、科学技術館3階G棟に、新展示「ダウンヒルレース」が登場しました。

今回は、回転のしにくさを表す量「慣性モーメント」の基本的な性質を体験できる展示物を制作しました。構想にあたっては、アメリカの科学館「エクスプロラトリウム」が発行している、体験型展示物製作のためのレシピ集「クックブック」やウェブサイトを参考にしました。

本展示では、木とアクリルで作られた5つの円板を使用します。円板には金属ナットのおもりが埋め込まれています。おもりの位置は円板ごとに異なりますが、数は同じであるため、すべての円板は同じ重さです。

来館者は円板を2つ選び、傾斜のついた2つのレーンにそれぞれを乗せて、

同時に転がします。すると、同じ重さであるにもかかわらず、円板ごとに転がる速さが異なることに気づきます。その違いを生むのがおもりの位置です。おもりが中心から遠い位置にある円板は回転しにくく、ゆっくりと転がります。逆に、おもりが中心に近い円板は回転しやすく、速く転がります。この現象を通して、慣性モーメントという概念を知ることができます。

円板を転がすことに夢中になる子どものそばで保護者の方が解説内容を説明する場面や、班行動中の小学生たちが展示台を囲んで楽しそうに体験している様子が日常的に見られます。大人と子どもが一緒に考えたり、複数人で共有しながら楽しんだりする姿を目にするたびに、本展示を制作した意義を強く感じています。〈科学技術館運営部 田中 勝〉

新カプセルトイ&新展示物「ツイストシリーズ」が「ものづくりの部屋」に登場!

マカロンとコーヒーが螺旋状に伸びていく?!

科学技術館2階「ものづくりの部屋」にこの春、新しいカプセルトイならびに新展示物として、「ツイストマカロン」と「ツイストコーヒー」が登場しました。

開発のきっかけは、3Dプリンター・データサイトで流行っていた、造形物が螺旋状につながったままバラバラになる仕組みを見たことで、この仕組みをカプセルトイにしたら面白いのでは、と思い検討を始めました。こういった形にするか考えたときに、マカロンが実物サイズでちょうど良いと思い付き、まず「ツイストマカロン」の製作を始めました。

「ツイストマカロン」が、つながったパーツを上引き上げるのに対して、「ツイストコーヒー」は、パーツを下におろすような構造のものもできないかを考えたときに、コーヒーがこぼれるような形にしたら面白いと思い、製作しました。

カプセルトイにする際には、材料費や

サイズの関係で、部品の厚みや部品同士の間隔などがスペースの取り合いになり、必要なサイズ内に収めるのに苦労しました。また、展示物の「ツイストコーヒー」はかなり長く伸びるため、部品同士が外れることがよくありました。そこで、長く伸びすぎないようにストッパー位置を調整することで故障の発生率を下げることができました。

設置直後から、展示物とカプセルトイのどちらも好評で、展示物で体験してからカプセルトイを買われていく方も多く見られます。元々はカプセルトイのみで販売しており、展示物を設置するとカプセルトイの売り上げが落ちるのではという懸念もありましたが、実際に設置してみるとむしろ逆で、展示物で試遊することで、カプセルトイの売り上げが上がったことは良かったです。

〈科学技術館運営部 横山 力〉



上) 美味しそうなコーヒーとマカロンをご用意。ただし飲んだり食べたりはできません……



右) 可愛いマカロンが瞬間でこのとおり! カプセルトイは1個500円(税込)。コーヒーはレアアイテムです



カプセルトイより大きめサイズの展示物で遊ぶ男の子。カップを持ち上げてコーヒーを一気飲み?!



大規模リニューアル工事中も多彩なイベントを開催

航空講演会「所沢飛行場小史」や各地の博物館でのイベントも好評

大規模リニューアル工事のため休館中の所沢航空発祥記念館では、工作教室や航空講演会、各地の航空系博物館との連携による出張展示や講演会など、さまざまな活動を継続しています。日本最初の飛行場・所沢飛行場の歴史や航空文化の魅力を広く発信しながら、2027年春に予定しているリニューアルオープンに向けて準備を進めています。



航空講演会「所沢飛行場小史～日本最初の飛行場～大正編」の様子

所沢図書館と共催で、明治・大正時代の航空史をたどる航空講演会「所沢飛行場小史～日本最初の飛行場～」開催

大規模リニューアル工事中の所沢航空発祥記念館では、所沢航空記念公園の施設を利用した「ひこうき工作教室」等の開催や、全国の航空系博物館に協力をいただき展示活動を行うなど、博物館の諸活動を継続するとともに展示リニューアルPRを推進しています。

この春には、日本で初めてできた飛行場・所沢飛行場の歴史を伝える航空講演会「所沢飛行場小史～日本最初の飛行場～」を、所沢市立所沢図書館本館との共催により、同図書館集会室にて計2回開催しました。

1903年12月にライト兄弟が世界初の動力飛行に成功してから、欧米各国での飛行機研究がより盛んに行われるようになり、日本では1910(明治43)年12月に代々木練兵場において、徳川好敏と日野熊蔵の両大尉が初飛行に成功しました。翌1911(明治44)年4月1日には、初の飛行場として所沢飛行場が誕生。この年、日本初の国産民間機「奈良原式2号」機、また初の軍用機「会式一号」機が初飛行し、以後、日本の航空は「航空発祥の地・所沢」から発展していきました。

今回の講演会では、所沢航空資料調査収集する会・会員で航空史研究家の荒山彰久さんをお招きして、3月28日(土)に所沢飛行場の明治時代の歴史、5月30日(土)に同飛行場の

大正時代の歴史についてお話いただきました。参加者からは、「飛行機・飛行船の初期の歴史をたどることができ、とても興味深かった」「航空公園には頻繁に訪れていたの、歴史を聞いて大変ためになった」など好評をいただきました。

航空系博物館と連携した出張展示や講演会を開催

零戦、YS-11のパネル展示、講演会「所沢飛行場ものがたり」

昨年、休館前に開催し好評を博した特別展「時代を翔けた零戦、そしてYS-11」のパネル展示を、航空系博物館と連携した出張展示という形式で、1月10日(土)～2月23日(月・祝)に航空科学博物館(千葉)、4月25日(土)～5月31日(日)にあいち航空ミュージアム(愛知)にて開催しました。あわせて、あいち航空ミュージアムでは、当館学芸員が講演会「所沢飛行場ものがたり」を5月23日(土)に行い、青森県三沢航空科学館、石川県立航空プラザの各会場へも配信を行い、日本で初めてできた飛行場、所沢飛行場の歴史をご紹介します。

当記念館のリニューアルオープンは2027年春の予定です。皆様のお越しをお待ちしております。〈航空記念館運営部〉



航空科学博物館への出張展示「時代を翔けた零戦、そしてYS-11」



あいち航空ミュージアムでの講演会「所沢飛行場ものがたり」の様子

あいち航空ミュージアムへの出張展示「時代を翔けた零戦、そしてYS-11」

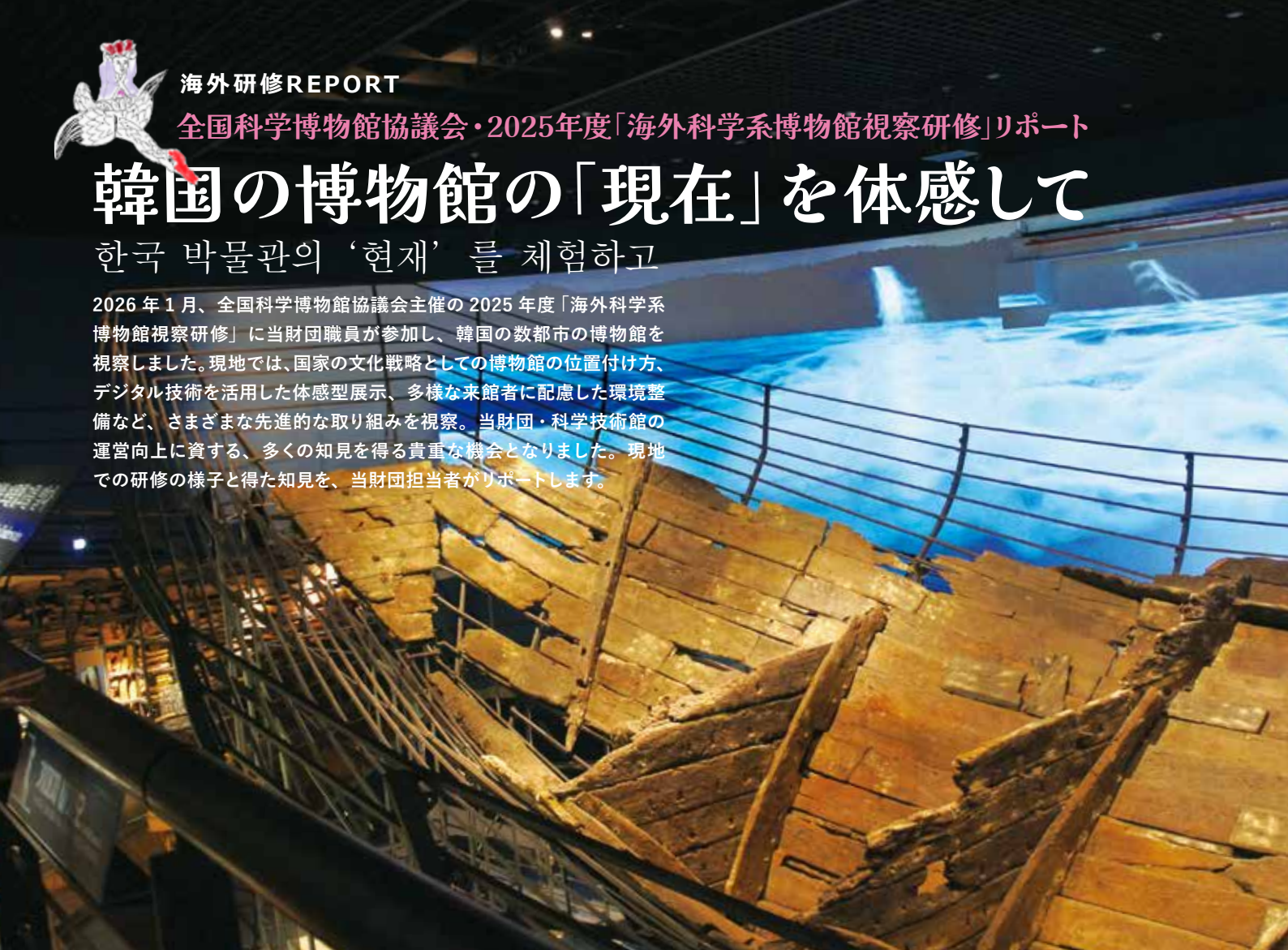




韓国の博物館の「現在」を体感して

한국 박물관의 ‘현재’를 체험하고

2026年1月、全国科学博物館協議会主催の2025年度「海外科学系博物館視察研修」に当財団職員が参加し、韓国の数都市の博物館を視察しました。現地では、国家の文化戦略としての博物館の位置付け方、デジタル技術を活用した体感型展示、多様な来館者に配慮した環境整備など、さまざまな先進的な取り組みを視察。当財団・科学技術館の運営向上に資する、多くの知見を得る貴重な機会となりました。現地での研修の様子と得た知見を、当財団担当者がレポートします。



国立海洋遺産研究所・展示室：新安沈没船と大型スクリーン映像の迫力ある展示

2026年1月13日（火）から19日（月）までの7日間、全国科学博物館協議会（全科協）主催の「海外科学系博物館視察研修」（総勢16名）に参加し、展示手法や運営体制、来館者サービスを学ぶため、韓国の博物館を訪問する機会を得ました。ソウル、木浦（モッポ）、光州（クァンジュ）の3都市を巡り、計5施設を訪問。さらに自主研修日には個々のリサーチに基づいて博物館を見学するなど、韓国の博物館の多様な取り組みに触れる貴重な研修となりました。

●圧倒的なスケールと「体感」へのこだわり

まず驚かされたのは、どの博物館も非常に大規模であることです。中でも韓国最大の博物館である「国立中央博物館」は、大型商業施設を思わせるほど広大な規模で、足早に見学しても一日では回り切れないほどでした。

今回訪問した館に共通していた展示手法の特徴は、体感型への徹底したこだわりです。巨大なプロジェクションマッピングやハンズオン展示が随所に配置されています。ハングルに馴染みのない海外からの来館者にとっても、言語の壁を越えて直感的に展示内容を理解できる工夫として機能していました。

デジタル技術を使用した映像展示や最新科学の展示では、

内容の陳腐化が課題となりがちです。これに対して「国立果川（クァチョン）科学館」では、毎年一定規模の予算を確保し、計画的に展示を更新できる体制が整えられており、科学館の展示の鮮度や魅力を保つために重要な取り組みだと感じました。

●次世代を育む教育と来館者サービス

また、次世代を担う子どもたちへの配慮も印象的でした。例えば「国立光州科学館」では、子どもの目線や安全性を考慮して、未就学児でも遊びを通して科学を体感できる専用のエリアが設けられています。訪問時には、近隣の幼稚園児の団体が来館しており、子どもたちが夢中で体験している様子を見ることができました。感覚過敏などの特性がある方が安心して過ごせる「センサリールーム」を設置している施設もあり、多様な来館者に対する環境整備も進んでいます。

こうした子ども向けの展示は人気が高く、混雑を避け質の高い体験ができるよう、時間指定の予約制を導入している館もあります。デジタル予約システムを採用している施設では、事後にアンケートを送付し、その結果を展示にフィードバックするなど、来館者目線に立った運営が徹底されています。

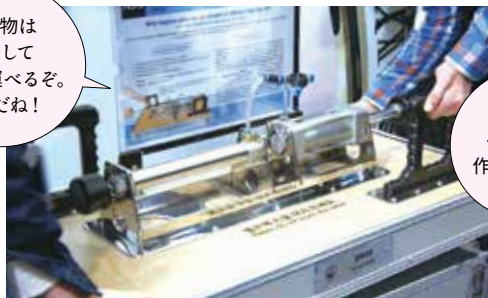
国立果川科学館



火星の
模擬体験で
気分はちょっと
「オデッセイ」?!



展示物は
収納して
すぐに運べるぞ。
便利だね!



首飾りは
そうやって
作るんだな〜

上) スペースアナログ: 宇宙飛行士の模擬訓練の体験施設
下) 展示: 科学の原理を学べる移動型の展示物

国立中央博物館



人が
小さく
見えるね



落ち着く色に
変えられるよ



上) 外観: BTS の MV 撮影場所としても有名
下) 展示: 展示物の制作方法や用途が視覚的に理解できる工夫

センサリールーム: 特性に合わせて
光や色の調節ができる

国立海洋遺産研究所



目の前で
料理しているかと
思っちゃうよ



展示: 臨場感のある映像と展示の組み合わせ

意見交換会: 韓国の学芸員たちと意見交換

海外からの
訪問者対応に
予算が付く
らしいよ

国立光州科学館



未就学児エリア: 海がテーマの展示物で遊ぶ子どもたち

私も
いっしょに
遊びたいな〜

●海を越えた歴史の再発見

日本との古くからのつながりを実感したのは、木浦にある「国立海洋遺産研究所」です。水中考古学の成果の展示である、全長約 30 m に及ぶ新安沈没船の展示は迫力があり、非常に見ごたえのあるものでした。同館には、朝鮮通信使船を再現した船があります。昨年 (2025 年) の大阪・関西万博の開催に合わせ、釜山から大阪までのかつての航路を実際に再現運航したとのことで、両国の歴史的・文化的な結びつきを改めて認識しました。

●「ミュージアムとはテンプルかフォーラムか」

韓国では、国立博物館・美術館を中心に、2008 年より政府の方針で原則常設展示の入場料の無料化が進められており (有料の施設もあります)、国家の文化戦略として、博物館を自国文化の発信と教育の場として明確に位置付けていることがうかがえました。

「ミュージアムとはテンプル (神殿) かフォーラム (対話の広場) か?」※——この問いに対する各館の試行錯誤や運営への姿勢を、肌で感じる貴重な機会となりました。今回の研修で得た知見を、今後の当館の運営や来館者サービス向上に生かしていきたいと考えています。〈総務室 細川 桃子〉

※ 美術史家・博物館学者ダンカン・キャメロンの論考 (1971)

●自主研修

過去と未来をつなぐ「見せる収蔵庫」 国立民俗博物館 坡州 (パジュ)

自主研修では、国立民俗博物館坡州 (パジュ) を訪問しました。同館は、博物館の重要機能である「保存 (収蔵庫)」を「見える」形で公開することをコンセプトにした「開放型収蔵庫」の博物館です。建物に足を踏み入れると、すぐ目の前に天井まで届く巨大なガラス張りの格子状の収蔵棚が現れます。韓国の古家具からコップや眼鏡といった日常の生活用品にいたるまで、同種の資料を膨大な物量で鑑賞できます。あえて展覧会のようなテーマ設定や解説を前提とせず、モノの集合体から類似点や差異を見比べることは、これまでにない新鮮な体験となりました。

収蔵庫が
そのまま
博物館に
なってるんだ



上) 「見える」収蔵庫とリオのカーニバルの展示
下) アニメーションを使用した保存修復の説明映像

日本科学技術振興財団 2026年6月開催 通常理事会・定時評議員会 報告

2025年度 当財団の事業報告・決算を承認

公益財団法人日本科学技術振興財団は、2026年6月4日(木)に「第29回通常理事会」を、6月22日(月)に「第16回定時評議員会」を、科学技術館第3会議室にて開催しました。2025年度の事業報告および決算の承認を中心に、各会で審議された事項と可決内容について報告いたします。



科学技術館第3会議室にて開かれた通常理事会の様子

第29回通常理事会

(2026年6月4日開催)

2025年度事業報告および 決算書類の承認の件などを審議

当財団は、「第29回通常理事会」を6月4日に科学技術館第3会議室で開催しました。同会では、当財団の東原敏昭理事長が議長を務め、12名の理事および2名の監事のご出席のもと、議案の審議と報告を行いました。

議案としては、①2025年度の事業報告および決算書類の承認の件、②定時評議員会の招集の件、③理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件、④重要な使用人の選任の件、⑤2026年度補助・助成事業実施に関する件について審議され、原案どおり可決されました。

また、報告事項としては、2026年度第1回業務執行報告として、直近の活動の様子を伝えたほか、財団活動状況・今年のトピックス(イベント計画等)、科学技術館建て替えの検討状況について報告を行いました。

第16回定時評議員会

(2026年6月22日開催)

2025年決算書類の承認の件、 評議員選任の件などを審議

また当財団は、「第16回定時評議員会」を6月22日に科学技術館第3会議室で開催しました。同会では、当財団の榊原定征評議員会会長が議長を務め、10名の評議員のご出席のもと、議案の審議と報告を行いました。

議案としては、①2025年度決算書類の承認の件、②評議員選任の件について審議が行われ、原案どおり可決されました。

また、報告事項としては、2025年度の事業報告、財団活動状況・今年のトピックス、科学技術館建て替えの検討状況について報告を行いました。

それぞれの会議においては、理事、評議員の方々から当財団の活動に対する心強いお言葉を頂戴しました。貴重なご意見を、今後の財団運営に生かしてまいります。〈総務室 山田 智一〉



通常理事会にて議長を務めた
当財団の東原敏昭理事長



評議員会にて議長を務めた当
財団の榊原定征評議員会会長

日本科学技術振興財団の
事業概要・活動の詳細については
下記の公式ウェブサイトにてご覧いただけます。



<https://www2.jsf.or.jp/>

2025年度 決算報告（正味財産増減計算書より抜粋）

※ 2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日、カッコ内は百万円未満切り捨て

● 経常収益 (2,175 百万円)

1. 基本財産運用益 (4 百万円)
2. 特定資産運用益 (0 百万円)
3. 事業収益 (1,998 百万円)

I. 科学技術振興事業収益 (1,060 百万円)

① 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援 (899 百万円)

- ・科学技術館入館料
- ・科学技術館展示出展料
- ・科学技術館附帯事業
- ・巡回展
- ・所沢航空発祥記念館運営
- ・受託事業

② 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催 (161 百万円)

- ・サイエンス友の会会費
- ・協賛
- ・受託事業

II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業収益 (276 百万円)

III. 科学技術館施設の利用促進事業収益 (661 百万円)

- ・催事場使用料等
- ・レストラン業務
- ・スタジオ等使用料

4. 受取補助金・助成金 (44 百万円)

5. 受取寄付金・賛助金 (67 百万円)

- ・募集特定寄付金等
- ・その他受取寄付・賛助金

6. 国際科学オリンピック寄付金等振替 (4 百万円)

7. 展示制作寄付金等振替 (45 百万円)

8. 雑収益 (11 百万円)

● 経常費用 (1,863 百万円)

1. 事業費 (1,854 百万円)

2. 管理費 (9 百万円)

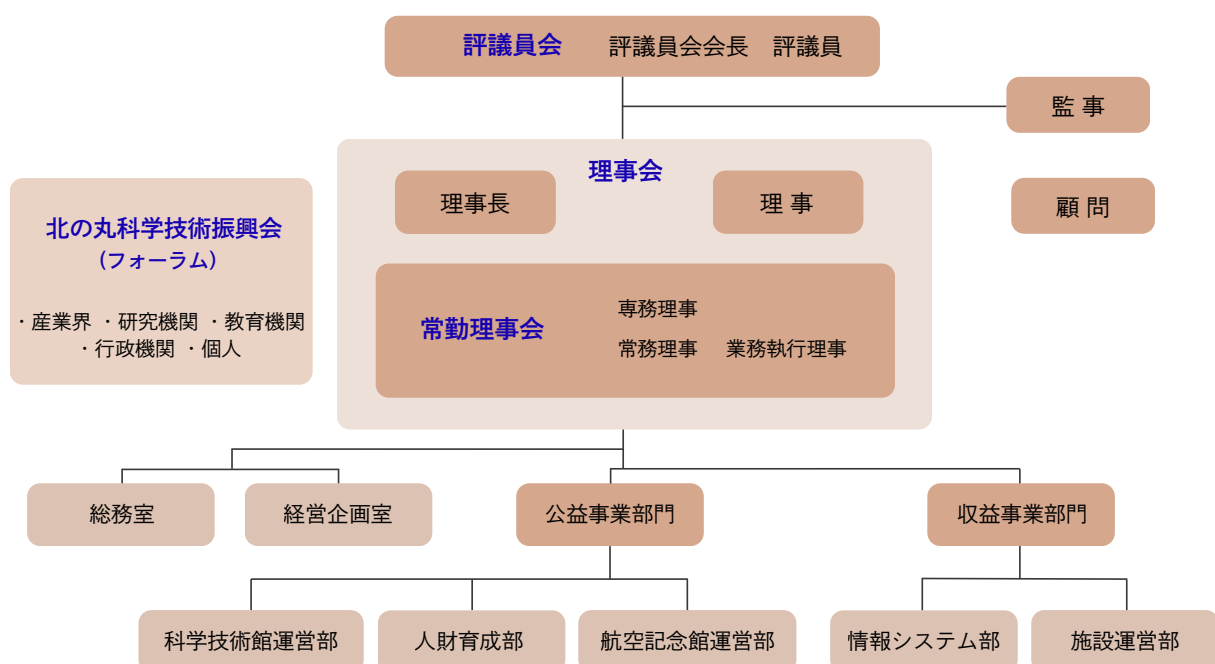
● 当期経常増減額 (311 百万円)

※ 詳細については、こちらからご覧いただけます。

公益財団法人日本科学技術振興財団 公開情報
<https://www2.jsf.or.jp/about/disclosure/>



財団組織図 (2026 年 7 月現在)



日本科学技術振興財団・科学技術館の情報案内

日本科学技術振興財団ならびに、当財団が運営する科学技術館や所沢航空発祥記念館の基本情報・最新情報を各メディアにてご紹介しております。下記の URL または二次元コード (QR コード) から、どうぞご覧ください。

WEB

JAPAN SCIENCE FOUNDATION

日本科学技術振興財団

<https://www2.jsf.or.jp/>



科学技術普及啓発、理工系人材育成、博物館運営などの各事業やイベント情報など、財団活動全般を紹介しています。

FACILITIES RENTAL

科学技術館 貸出施設のご案内

<https://event-jsf.jp/>



科学技術館の貸出施設である 1 階展示・イベントホール、大小 4 つの会議室、サイエンスホールの詳細をご案内しています。

MAGAZINE

QUARTERLY MAGAZINE

JSF TODAY

<https://www2.jsf.or.jp/publications/magazine/>



当財団が発行する季刊広報誌です。館内イベントや展示紹介など事業活動をレポート。バックナンバーも閲覧いただけます。

SNS

X

当財団・科学技術館 X (エックス)

https://x.com/JSF_SMT



科学技術館の最新イベント情報や館情報を中心にお届けする当財団の SNS です。ぜひフォローしてご活用ください。



SCIENCE MUSEUM

科学技術館

<https://www.jsf.or.jp/>



財団の基幹事業である科学技術館の情報を発信。開館情報、常設展示、実験プログラム、イベントなどの情報が満載です。

TOKOROZAWA AVIATION MUSEUM

所沢航空発祥記念館

<https://tam-web.jsf.or.jp/>



当財団が埼玉県指定管理者として運営を行っている、所沢航空記念公園内にある航空系博物館の情報をお届けしています。

MAIL MAGAZINE

科学技術館メールマガジン

<https://www3.jsf.or.jp/mailmaga/attention.htm>



科学技術館と関連施設・所沢航空発祥記念館の最新のご案内・イベント情報を、毎月第3水曜日にお届けしています。

INSTAGRAM

科学技術館Instagram

<https://www.instagram.com/sciencemuseum.jp/>



科学技術館の常設展示、実験プログラム、最新イベント情報、実験のヒントなどを、楽しい動画や写真でご紹介しています。

ご支援・寄付のお願い (一般の個人様向け)

公益財団法人日本科学技術振興財団は、科学技術館の運営をはじめ、理科好きの子どもたちを増やし、理系を志す青少年を育成する活動を通じて、社会への貢献に努めております。これらの活動を維持・発展させていくために、この度、皆様からのご寄付の受け付けを始めました。

子どもたちの理科離れは、我が国が抱える大きな社会的課題となっています。その課題を解決するための方策の一つとして、当財団は、子どもたちに科学技術の不思議や面白さを伝えるとともに、科学技術が産業や経済の発展にもつながり社会に役立つことを、さまざまな取り組みを通して理解してもらう活動を行っています。こうした活動を通じて、明日を担う研究者や技術者が育ち、我が国の科学技術の礎を築いていくことが、当財団の使命であると考えております。

私たちの活動趣旨にご賛同いただき、日本の将来を支える取り組みに対し、個人の皆様からのご寄付を賜りますようお願い申し上げます。



日本科学技術振興財団ウェブ、「寄付のお願い」ページ

<https://www2.jsf.or.jp/support/donation/>

同ページにて、詳細・お申込み方法をご覧ください。

特定事業への寄付・協賛のお願い (企業・団体様、一般の個人様向け)

<https://www2.jsf.or.jp/support/guide/#support04>

「青少年のための科学の祭典」や「日本生物学オリンピック」など特定事業への寄付や協賛も募っております。ぜひご協力をお願い申し上げます。

〈経営企画室〉

賛助会「北の丸科学技術振興会」入会のご案内

公益財団法人日本科学技術振興財団では、当財団の賛助会「北の丸科学技術振興会」にて会員の方を募集しております。

将来にわたって日本が科学技術先進国であり続けるために、当財団は、次代を担う理工系人材の育成を主眼に置き、子どもたちの科学技術への興味・関心を高めるためのさまざまな活動を行っております。こうした活動を維持・発展させるため、当財団は2011年4月、「北の丸科学技術振興会」を設立し、企業、団体、個人様に、活動資金などのご支援と協力をお願いしております。当財団の趣旨にご賛同いただき、ぜひ当会にご入会いただければ幸いです。

●詳細は下記 URL からご覧いただけます。

日本科学技術振興財団ウェブサイト内
<https://www2.jsf.or.jp/support/membership/>

●お問い合わせ

公益財団法人日本科学技術振興財団 経営企画室
<https://www2.jsf.or.jp/contact/>



◇会員区分

賛助会員：この法人の目的、事業に賛同し、賛助会費を納入する個人及び企業・団体
(年会費：1口1万円、個人会員は1口以上、法人会員は10口以上)

特任会員：この法人の諸活動を支援する者として特に理事長が認める個人及び企業・団体

◇税制上の優遇措置

当財団は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けており、税法上の「特定公益増進法人」に該当するとともに、「税額控除証明」を取得しているため、当財団への寄付金・賛助会費については、税制上の優遇措置を受けることができます。個人様の寄付金の場合、所得控除もしくは税額控除のいずれかを選択することができます。法人様の寄付金の場合、一般の寄付金とは別枠の損金算入が認められます。

〈経営企画室〉

賛助会員企業・団体名 2026年7月14日現在

皆様方のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

アサヒ飲料株式会社
旭化成株式会社
江崎グリコ株式会社
NEC ネットエスアイ株式会社
株式会社エヌ・ティー・エス
NTT 株式会社
株式会社旺文社
一般財団法人大阪科学技術センター
花王株式会社
学校法人科学技術学園
公益財団法人科学技術広報財団
公益社団法人科学技術国際交流センター
鹿島建設株式会社
株式会社関電工
キャノン株式会社
協和キリン株式会社
キリンビバレッジ株式会社
クミアイ化学工業株式会社
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社

公益財団法人産業雇用安定センター
サントリービバレッジソリューション株式会社
JFEスチール株式会社
株式会社潮見サービス
株式会社島津製作所
株式会社 SUBARU
住友化学株式会社
公益財団法人全日本科学技術協会
損害保険ジャパン株式会社
株式会社第一工芸社
大同特殊鋼株式会社
高砂香料工業株式会社
中外製薬株式会社
THK株式会社
東京応化工業株式会社
有限会社東興エステート
株式会社東芝
東レ株式会社
日本化薬株式会社

日本精工株式会社
日本製鉄株式会社
公益財団法人日本海洋科学振興財団
一般財団法人日本鯨類研究所
一般社団法人日本鉄鋼連盟
日本電子株式会社
一般財団法人バイオインダストリー協会
一般財団法人光産業技術振興協会
日立建機株式会社
株式会社日立製作所
三井化学株式会社
三井不動産株式会社
三菱重工業株式会社
三菱商事株式会社
リコージャパン株式会社
理想科学工業株式会社
一般財団法人リモート・センシング技術センター
株式会社レゾナック・ホールディングス
(五十音順)

公益財団法人 日本科学技術振興財団について

公益財団法人日本科学技術振興財団は、1960年4月、「科学技術の振興に関する諸事業を総合的かつ効果的に推進し、我が国の科学技術水準の向上に寄与する」ことを目的として、産・官・学の総意のもと設立されました。以来、科学技術の普及・啓発と人材育成を担う公益財団法人として幅広い活動を行っております。

1964年には東京都千代田区に科学技術館を開館し、以来、子どもたちを中心に年間約50万人、累計3,000万人を超える来館者を迎えてきました。

また、理工系の人材育成事業をはじめ、所沢航空発祥記念館の受託運営、施設貸出事業、情報システム事業など、公益・収益の両部門において多様な事業を展開しております。

現在、当財団は、「科学技術の発展と社会課題の解決への貢献」をミッションに掲げております。今後も、経済界、産業界、行政機関、教育・研究機関との連携を一層深め、理工系人材の育成と科学技術の振興を通じて、持続可能で豊かな社会の実現に貢献してまいります。

編集後記

◇科学技術館内を歩くと、あちらこちらで見かける青いジャンパー姿。館の運営を日々担う、サムライブルーならぬ「カギカンブルー」のスタッフたちです。彼／彼女らは、専門分野も特技も趣味もそれぞれ違いますが、「科学の面白さを子どもたちに伝えたい!」という、まっすぐな情熱だけはみな共通しています。◇今号では、そんな情熱から生まれた館スタッフ・オリジナル教室の数々をご紹介します。スタッフたちの情熱に火をつける源は、いつだって、子どもたちが夢中になっている姿。今も新しい教室が日々つくられているようです。〈永〉

なにこれ!? 科学技術館事典

FUNNY ENCYCLOPEDIA OF SCIENCE MUSEUM

ちけっとかうんたー【チケットカウンター】

〔ticket counter〕(名・施設)

- ① 科学技術館の扉をくぐると、正面奥に見える真っ白な空間。ここは来館者を最初にお迎えする“玄関口”。元気なチケット売場スタッフたちが、お客様にチケットをお渡しし、笑顔で館内へと送り出す、いわば、科学技術館の“顔”でもある。
- ② チケット売場スタッフの仕事は多岐にわたる。チケット販売をはじめ、前売券販売、友の会入会対応、館内アナウンス、落し物対応、混雑状況・周辺情報などのご案内にも対応。お客様の熱いサポーターとして、快適な見学を支えている。
- ③ 社会科見学の団体受け入れ、バリアフリー対応なども彼女たちの重要な役割。繁忙期には1日30校を超える学校を迎えることも。分刻みでのご案内中、到着時間の急な変更があってもスタッフが連携して臨機応変に対応。そのチームワークの良さはプロスポーツチームにも匹敵する!?
- ④ いろいろなお客様に対応するスタッフたち。近年増加中の海外からのお客様には、英語対応スタッフや複数言語翻訳アプリ活用でのご案内。また、お子さんの「外の壁の星は全部でいくつ?」という突然の質問にも、みな即答できるとか!
- ⑤ “お客様に「また来たい」と思ってもらえる接客”が彼女たちのモットー。あるスタッフは、お子さんから「遠足で来た時に楽しくて、今日は家族と来たよ!」と話しかけられ思わず笑顔に。嬉しい言葉は、かけがえのない宝物である。

凡例 ●本事典は、科学技術館内の展示ならびに演示について解説したものです。●本文は、かな表記【名称】〔英語表記〕(ジャンル・展示室名等)説明文、の順に配列しています。●ご紹介している展示物やプログラムは、科学技術館にお越しいただき、実際に体験し、存分に楽しんでいただくことをお勧めします。



チケットカウンターでスタッフたちがニコニコお出迎え。在籍スタッフは現在、総勢約15名。みな個性豊かな面々で、日々、てきぱきとお客様の楽しい館体験をサポートしています。今日も笑顔でお客様に、「いってらっしゃいませ!」

チケットカウンター(名・施設/1階)



科学技術館で、来館されたお客様をお迎えするチケットカウンター。複数のスタッフが常駐し、チケット販売、インフォメーション案内を中心としたお客様対応、団体見学対応を行っています。スタッフの背後にあるモニター、掲示板には、その日の館内プログラム情報なども表示しています。

科学技術館のご利用案内



- 鉄道** 東京メトロ東西線 竹橋駅下車(1b出口)徒歩約550m
東京メトロ東西線・半蔵門線・都営地下鉄新宿線 九段下駅下車(2番出口)徒歩約800m
- 自動車** 首都高速都心環状線(外回り)代官町出口からすぐ
首都高速都心環状線(内回り)北の丸出口からすぐ
※科学技術館には専用駐車場はありません。北の丸公園内の有料駐車場等をご利用ください。

開館時間：開館 9時30分、閉館 16時50分(入館は16時まで)

休館日：一部の水曜日(休日の場合は次の平日)

※ただし、学校の長期休み等の水曜日は開館します。
年末年始(12月28日～1月3日)

入館料金

	大人	中学生・高校生	子供(4歳以上)
個人	950円	600円	500円
団体	710円	450円	350円

※65歳以上の高齢者の方や、身体障害者手帳等をお持ちの方の特別割引もございますので、証明書や手帳等をチケットカウンターにてご呈示ください。

所在地：東京都千代田区北の丸公園2番1号

WEB：<https://www.jsf.or.jp/>

TEL：03-3212-8544

